

2020年9月14日
 国立情報学研究所
 学術コンテンツ課

国立国会図書館及び科学技術振興機構との連携について

1. 国立国会図書館および科学技術振興機構との連携

- 国立国会図書館（NDL）、科学技術振興機構（JST）、国立情報学研究所（NII）では、3機関での連携を具体的に推進するために、担当者レベルでの検討の場を設ける方向で調整を行った。

参考：第26回これからの学術情報システム構築検討委員会資料

- 第7回NII・JST・NDL 連絡会議（2020年2月10日）後に確定した連携協力事項のうち、2020年度は以下の3つの新規事業に取り組むことになった。

1	新規	メタデータの相互運用性に関する検討ワーキンググループ	人や機関、研究成果等に関するメタデータについて、国内に多様な形式が存在することにより相互運用性が低いなどの課題がある。課題抽出および課題解決を検討する。
2	新規	デジタルアーカイブのメタデータ流通検討	各大学図書館等でデジタル化された貴重書等のコンテンツについて、ジャパンサーチ等の統合検索サービスを通じてアクセスを可能とするためのシステム、メタデータ、識別子付与のあり方を検討する。
3	新規	サービス連携に関する将来検討	現在サービスを行っている CiNii Articles, Books, Dissertations は、将来的に CiNii Research に統合予定である（CiNii Research は 2020 年に単独でサービス開始を予定している）。これに向けて、新システム上での各サービスとの連携等について意見交換を行う。 併せて、合理的なデータ連携のため、各機関または外部機関が付与している識別子の機械的連携に向けた検討も行う。例えば、NDL の記事書誌 ID と CiNii Articles の記事 ID を相互に持ち合うなど。

- 上記のうち「デジタルアーカイブのメタデータ流通検討」について、システムワークフロー検討作業部会中央システム整備（メタデータ流通の高度化対応）班及びオープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）のコンテンツ流通促進作業部会が連携して、具体的な検討を行う。

[進め方]

両作業部会の代表者と NDL の電子情報サービス課を中心に Backlog、Slack、オンライン会議システムを用いて検討を進める。

[成果]

2021 年度末に検討結果を盛り込んだガイドラインを作成する

[参加者]

飯野システムワークフロー検討作業部会主査、田口委員（システムワークフロー検討作業部会、兼 JPACOAR コンテンツ流通促進作業部会）

- 上記のうち「サービス連携に関する将来検討」については、NII の CiNii Research 担当を中心に具体的な検討を行う。

[進め方]

メーリングリスト、オンライン会議システムを用いて検討を進める。

[成果]

2021 年度末までに合理的なデータ連携方法を確定する。

[参加者]

大波特任准教授、阪口係長

- 詳細は別紙「NDL と大学図書館等によるメタデータ検討領域一覧」を参照。
- 検討領域には識別子、ライセンス等、専門的の高い内容が含まれるため、適宜本委員会の委員の皆様からご協力いただきたい。

2. 2020 年度スケジュール

2020 年 4 月 30 日	NII・NDL 打ち合わせ
2020 年 7 月 30 日	第 1 回調整会議
2020 年 8 月～2021 年 1 月	各検討領域の詳細検討
2021 年 2 月	NII・JST・NDL 連絡会議での成果報告

以上